

キリストの増し加わりは召会の増し加わりのためであり、
これは増し加わりの法則にしたがって他の人に命を供給することによる

聖書：I ヨハネ 5:16 前半、出 21:5-6、イザヤ 50:4-5、

I テサロニケ 2:7, 11、ヨハネ 15:1-5

I. I ヨハネ第 5 章 16 節前半は言います、「だれでも自分の兄弟が、死に至らない罪を犯しているのを見たなら、その人は祈り求めるべきです。そうすれば、彼はその人に、死に至らない罪を犯している人たちに、命を与えます」:

A. この「命」は「ゾーエ (zoe)」、すなわち霊的な、永遠の、神聖な命です——参照、ヨハネ 10:10 のフットノート 1, 使徒 11:18 のフットノート 1, ローマ 5:17 のフットノート 4。

B. これは、求める者が自分自身の命を持っていて、自分自身で他の人に命を与えることができることを意味するものではありません。それが意味するのは、主の中に住んで、主と一であり、主と一つ霊の中で (I コリント 6:17) 求めているそのような求める者が、求めている者に、神の命を与える霊が命を与えることができる手段となるということです:

1. わたしたちは、弱い人に命を与えて、彼らの死を飲み尽くすという特権を持っています。これは、神聖な命の交わりの中で命を分け与えるという事柄です。

2. わたしたちは他の人に命を与えることができる人になるために、神聖な命の中に住んで、神聖な命の中で歩き、生活し、存在しなければなりません。

II. わたしたちは他の人に命を供給するために、少なくとも四つの事を行わなければなりません:

A. わたしたちは十分に主と接触して、ただ主と共に時間を費やし、主の対処することの中で主に聞き従い、時機を得た言葉を語って、疲れた者を支える必要があります——出 21:5-6、イザヤ 50:4-5。

B. わたしたちは主の光の下で、主の臨在の中で彼によって対処されることを学ばなければなりません。わたしたちは実を結ぶために、主と交渉して、ぶどうの木の新しい、新鮮で、柔らかい枝とならなければなりません。わたしたちはすべての妨げを対処して、実を結ぶ生活をしなければなりません。わたしたちは自分の天然の個性を対処して、人々を顧みることで柔軟にならなければなりません——I ヨハネ 1:7, 9、ヨハネ 15:2。

C. わたしたちは人々 (未信者、幼い信者、新しい信者、弱い信者) を顧みる負担を取り上げなければなりません。わたしたちは養う母や勧める父のように彼らを顧み、人を捕る漁師また小羊を養う者とならなければなりません——I テサロニケ 2:7, 11、マタイ 4:19、ヨハネ 21:15、雅 1:7-8:

1. わたしたちは主の中で他の人を顧みることにより、主によって顧みられます:

a. わたしたちは他の人を潤すなら、自分自身が潤されます。わたしたちは命において成長することを願うなら、他の人が成長するのを助ける必要があります——箴 11:25、ヨハネ 7:37-39 前半。

- b. 受ける道は与えることであり、わたしたちは与えれば与えるほど、ますます受けます——ルカ 6:38. 使徒 20:35。
 - c. わたしたちは自分の祈りをただ自分自身のためから他の人のために転換するなら、自分が求めているものを受けられるでしょう——ヨブ 42:10. 創 20:17. 参照、21:1-2。
 - 2. わたしたちは他の人のために費やし、自分自身を使い尽くして、他の人のために自分の財物と命を犠牲にする必要があります——Ⅱコリント 12:14-15. Iヨハネ 3:16-18。
 - 3. わたしたちは多くの実を結ぶために、自分の個性を対処しなければなりません。パウロの個性は主によって完全に対処されたので、柔軟かく、曲げることができ、柔軟で、どのような状況にも適応することができました。わたしたちの個性は自己の深みであり、自己は否まれなければなりません——Iコリント 9:22. マタイ 16:24。
 - D. わたしたちは人々に興味を持つことを学ばなければなりません。毎日、主の民はわたしたちの「食物」でなければなりません。召会の中で多くの人は、彼らを担うわたしたちの肩と、愛の中で彼らを抱くわたしたちの胸を必要としています——ヨハネ 4:3-14, 31-34. 出 28:9-12, 15-21, 29. ローマ 12:15。
- Ⅲ. 召会におけるあらゆることは、命の性質の中にあり、命を内容とし、命を分け与えることの中になければなりません——ヨハネ 10:10 後半. 14:6 前半. Iコリント 15:45 後半. ローマ 8:2, 10, 6, 11 :**
- A. 召会の「交易」の「貨幣」はドルではなく、神聖な命です。神聖な命がわたしたちの唯一の「商品」です。
 - B. 召会は完全に命の事柄です。なぜなら召会は、キリストのからだとしての、また枝を伴うぶどうの木としての、三一の神の有機体であるからです (Iコリント 12:12. ヨハネ 15:1-5)。わたしたちの働き、語りかけ、交わり、奉仕、務め、メッセージ、聖書研究、祈りは、命の流れと分け与えの中になければなりません。
 - C. ぶどうの木の枝は、キリストの命の樹液としての命を与える霊の十分な供給を受けるとき、内なる命の供給のあふれ流れとして実を結びます——4-5 節。
- Ⅳ. 主イエスはわたしたちをはぐくむ人の子であり、またわたしたちを養う神の子です。わたしたちは彼の模範に従い、引き寄せる要因としてのキリストを経験し提示して、人々に命を供給し、正常な方法で彼らを得る必要があります :**
- A. 例証一 :
 - 1. キリストは人の子として、神の小羊となってわたしたちの罪を取り除きました (ヨハネ 1:29) ——はぐくみ。
 - 2. キリストは神の子として、命を与える霊と成ってわたしたちに命を与え、わたしたちを造り変えます (32-34, 42 節. Iコリント 15:45 後半. Ⅱコリント 3:6) ——養い。
 - B. 例証二 :
 - 1. キリストは人の子として、蛇の形において、彼の贖う死を通して、古い蛇、罪の源を滅ぼしました (ヨハネ 3:14. ヘブル 2:14. 参照、ローマ 16:20) ——はぐく

み。

2. キリストは神の子として、神の言葉を語り、その霊としてのご自身を限りなくわたしたちに与えて、わたしたちが永遠の命を持つようにします（ヨハネ 3:34-36, 15-16）——養い。

C. 例証三：

1. キリストは人の子（イエス）として、ユダヤからガリラヤに行き、スカルの町へと迂回して、ヤコブの井戸の近くで、渴いて水を求める、不道德なサマリアの女をことさら待ちました（4:3-9）——はぐくみ。
2. キリストは神の子として、賜物として神によって遣わされ、彼女に命の水を飲ませました。この水は湧き出て永遠の命へと至ります（10-14 節）——養い。

D. 例証四：

1. キリストは人の子として、神によって立てられており、この世のすべての人を、生きている者も死んだ者も裁きます（5:27-29. 使徒 17:31. 10:42. II テモテ 4:1. マタイ 25:31）。キリストの裁きは罪人に宣べ伝えられており、彼らに対するはぐくみとなります。それは、彼らが神へと悔い改めて、キリストを神の子として受け入れ、彼の永遠の命を持つためです。啓示録第 14 章 6 節から 7 節における裁きは、キリストの裁き的一部分として、地のすべての民に永遠の福音として宣べ伝えられます——はぐくみ。
2. キリストは神の子として、神によって権威が与えられ、永遠の命を彼の信者たちに与えました（ヨハネ 5:19-26. 17:2-3）——養い。

E. 例証五：

1. キリストは人の子として、罪深い女を罪定めしようとしませんでした（8:11 後半）——はぐくみ。
2. キリストは神の子（すなわち、あの「わたしはある」）として、彼女を罪から解放し、彼女がもはや罪を犯すことができないようにしました（11 節後半, 24, 36 節）——養い。

F. 例証六：

1. 神は彼の御子を遣わして、彼の人性においてわたしたちの罪のためになだめの供え物としました（I ヨハネ 4:10）——はぐくみ。
2. 神は彼の御子をわたしたちに遣わして、わたしたちが彼の神性において彼を通して命を持ち、生きるようにしました（9 節）——養い。これはヨハネ第 3 章 16 節によって確証されます。神はわたしたちに彼のひとり子を賜わり、わたしたち、彼の中へと信じる者が、人性における彼の贖いを通して滅びることがないようにし（はぐくみ）、彼の神性において永遠の命を持つようにしました（養い）。

G. 新約全体の例証：

1. キリストは人の子として来て、わたしたちを罪から贖いました（I テモテ 1:15）——はぐくみ。
2. キリストは神の子として来て、神聖な命をわたしたちの中へと豊かに与えました（ヨハネ 10:10）——養い。

H. 永遠におけるキリストの例証：

1. 彼は人の子として、はしごであって、彼のすべての信者と神との命の結合を支え維持します（1:51）——はぐくみ。
2. 彼は神の子として、新エルサレムの命の要素です。新エルサレムは、究極的に完成された三一の神と彼の栄光化された選びの民の神性と人性の構成です（啓第 21 章—第 22 章）——養い。

V. わたしたちは人に命を供給し、わたしたちの間の長く集会していない聖徒たちを回復するために、わたしたちの父なる神の愛し赦す心と、わたしたちの救い主キリストの牧養し捜す霊を持たなければなりません——ルカ 15:4-6, 8-9, 20-23. 詩歌, 354 番：

- A. わたしたちは主の心をわたしたちの心とし、失われた羊を尊ばなければなりません——ルカ 15:4-6。
- B. わたしたちは聖霊の働きに依り頼まなければなりません—— 8-9 節。
- C. わたしたちは御父の愛をもって人々を愛し、元気づける顔をもって彼らの所に行かなければなりません—— 18, 21 節. 詩 42:5, 11。

VI. 召会の増し加わりは、増し加わりの法則にしたがっています：

- A. キリストと召会は、三一の神の有機体としての宇宙的なぶどうの木です。信者たちはこのぶどうの木の枝として、三一の神との有機的な結合の中にあります——ヨハネ 15:1-5。
- B. わたしたち信者はキリストの枝であるので、御子としての彼の中に住み、主と一つ霊であり、こうして彼の地位と権威にあずかります—— I コリント 6:17. エペソ 2:5-6. マタイ 28:18-19。
- C. わたしたちは御子の中に住むことによって、御父の養いを受けます。なぜなら御父は栽培者、ぶどうの木を栽培する方であるからです（ヨハネ 15:1）。わたしたちは御子の中に住むことによって、御父の養いを受け、御父の神聖な性質の豊富を享受することができます（II ペテロ 1:4）。すなわち、神のすべての豊富を享受することができます（コロサイ 2:9-10）。
- D. わたしたちは御子の中に住むことによって、わたしたちの中の御子の実際化としての命の霊を経験します。この命の霊はまた、わたしたちの命の本質となります——ヨハネ 14:17, 19. 15:26。
- E. 実を結ぶ法則は、主の中に住み、三一の神との結合の中にいることです（5 節）。実を結ぶことは命の法則から来るのであって、奇跡からではありません。命の法則は、実を結ぶ法則、増し加わりの法則であり、四つの点を含みます：
 1. わたしたちは主の中に住むべきです。それは、枝がぶどうの木の中に住んで、主の命の供給を吸収するようにです。
 2. わたしたちは主の中に住んで、わたしたちの養分の源としての父なる神の供給と、わたしたちを潤し新鮮にするものとしての聖霊の供給を吸収すべきです。
 3. わたしたちは主の中に住んで、わたしたちの光としての神とわたしたちの空気としてのその霊の供給を吸収すべきです。
 4. わたしたちは主の中に住み、召会の中で生きるべきです。それはぶどうの木が園にとどまって、保護と顧みを受けなければならないようにです。